
Tapada das Necessidades

について

タパダ・ダス・ネセシダーデス (Tapada das Necessidades) タパダ・ダス・ネセシダーデスは、1604年からプラゼーレス (Prazeres) 地区にあった猟場です。1742年、ポルトガル王ジョアン5世が周囲の農地を購入し、礼拝堂、修道院とともに自分が住もうための宮殿を建てました。1843年、フェルナンド王がボナルドに庭園の再設計を依頼し、それまで菜園だったところをイギリス風の庭園にしました。その後ペドロ5世 (19世紀) が円形の温室を建て、カルロス1世 (19世紀末) がテニスコートとパビリオンをつくりました。このパビリオンは「カザ・ド・レガーロ」 (Casa do Ragalo) と呼ばれ、アメリカ王妃がアトリエとして使用していました。現在は、公園の森林管理委員会が管理しています。公園内には、パルメイラ (Palmeira)、エストレリシヤス (Estrelícias)、デューケ・デ・ラフォンス (Duque de Lafões) と呼ばれる3つの池があり、その周りにはさまざまな珍しい植物や、小さな滝、噴水、貯水池、そして「エスタトゥアリア・ダス・ヴィルトゥデス (美德の像)」シリーズをはじめとする彫刻が見られます。

時刻表

午前10時 - 午後6時半。休:12月24、25、31日、1月1日、復活祭の日曜日。

アクセス

バス
